

県内の広範囲で葉いもちの感染好適条件の出現がやや多い状況です

今後のいもち病の発生に注意し、適期防除に努めて下さい

[現在の発生状況]

- ① 7月上旬現在、病害虫防除所巡回調査圃場の葉いもちの発病度¹⁾ (本年値 2.2, 平年値 1.6)および発生地点率 (本年値 25%, 平年値 28%) はともに平年並である。
- ② 7月上旬現在、県予察圃 (水戸市, 無防除区) の葉いもちの発病度¹⁾ (本年値 22.5, 平年値 4.8) は平年より高い。
- ③ BLASTAM²⁾ を用いて葉いもちの感染好適条件を判定したところ, 7月1日から16日までの出現日数は平年よりやや多い (表1)。特に, 7月第1~2半旬にかけて県北地域で連続して感染好適条件が確認され, 7月第2~3半旬には県内の広範囲で確認された (表2)。
- ④ 気象予報によると, 向こう1か月の降水量は平年並または多い, 日照時間は平年より少ないと予測され, 発生を助長する条件である。

1) 発病度: 株ごとの発病程度をもとに算出した数値, 最小値は0で最大値は100となる。

2) BLASTAM: アメダスデータ4要素 (気温, 降水量, 風速, 日照) から, その日が葉いもちの感染に好適であったかを判定するプログラム。葉いもちの発病は, 感染好適条件が出現した日から7~10日後に始まると考えられる。

※ 各地点のBLASTAMによる葉いもちの感染好適条件の詳細については, 病害虫防除所ホームページで情報を随時更新しているので参考にする。

[防除上注意すべき事項]

- ① 例年, 梅雨明けまではいもち病の発生が増加するため, 現在発生がみられない水田でも注意する。葉いもちの発生を認めたら, 発生初期に防除を行う。
- ② いもち病菌がイネの穂に侵入しやすいのは, 出穂直後から出穂後14日位までである。この期間に降雨が続く場合は, 穂いもちの発生に注意が必要である。
- ③ 穂いもちを対象とした液剤の散布適期は, 穂ばらみ末期~穂揃期である。葉いもちが多発し, 上位葉に病斑が進展している水田では, 防除を徹底する。
- ④ 防除薬剤は表3を参考とする。なお, 粒剤およびジャンボ剤で防除する際は, 効果が現れるまでに時間がかかるため使用時期に注意するとともに, 湛水状態で薬剤を散布し, 1週間は止水して湛水状態を保つ。
- ⑤ 殺菌剤を複数回使用する場合, 薬剤耐性菌の出現を防ぐため, FRACコードの異なる薬剤を選択する。

表1 BLASTAM¹⁾による葉いもちの感染好適条件の地域別の平均出現日数 (7/1～7/16)

	県北	県央	鹿行	県南	県西
本年値	4.5	4.5	1.0	2.3	3.3
平年値	1.8	1.5	1.4	1.3	1.7

表2 7月1日～16日における葉いもちの感染好適条件等の出現状況

	アメダス地点	7/1	7/2	7/3	7/4	7/5	7/6	7/7	7/8	7/9	7/10	7/11	7/12	7/13	7/14	7/15	7/16
県北	北茨城					○	○		○		○					●	
	大子		●			●	●	●	●						●	●	
	日立					○					●				●	●	○
	常陸大宮		●				●	●	●						●	●	●
県央	水戸										●				●	●	
	笠間						●			●	●				●	●	●
鹿行	鉾田				○										○	●	
	鹿嶋				○						●				○		○
県南	土浦										●					●	○
	龍ヶ崎														●	●	
	つくば										●				●	●	○
県西	下館										●		○		●		
	下妻									●			○		●	●	○
	古河						●	●	○		●		●		●		

●：感染好適条件出現日

○：準感染好適条件出現日

1) BLASTAM：アメダスデータ4要素（気温、降水量、風速、日照）から、その日が葉いもちの感染に好適であったかを判定するプログラム。葉いもちの発病は、感染好適条件が出現した日から7～10日後に始まると考えられる。

注) BLASTAMは、特定地点の発生を予測するものではなく、広域にイもち病が感染する時期を推定するシステムであり、周辺地点の出現状況も併せて判断する。最寄りのアメダス地点で感染好適条件が出現していなくても、圃場によっては感染に好適な条件になっていることもある。

表3 水稻のいもち病防除に本田で使用できる主な薬剤 (令和2年7月14日現在)

薬剤名	有効成分の種類	FRACコード
キタジンP粒剤	IBP	6
ゴウケツパック/ サンブラスパック	トルプロカルブ	16.3
コラトップジャンボP	ピロキロン	16.1
アミスターエイト	アゾキシストロビン	11
トライフロアブル	テブフロキン	U16
ハンブラスフロアブル	トリシクラゾール	16.1
	フェリムゾン	U14
ブラシンフロアブル	フェリムゾン	U14
	フサライド	16.1

注) 農薬を使用する際は、ラベルに記載されている使用基準、注意事項を必ず確認のうえ使用する。